

令和5年度 スポーツ庁委託事業

令和の日本型学校体育構築支援事業

障害の有無にかかわらず 共に学ぶ体育授業の充実

事業報告書



Special
Olympics
Nippon



Special Olympics
Unified Schools



スペシャルオリンピックス(SO)とは

知的障害のある人達に、日常的なスポーツトレーニングとその成果の発表の場である競技会を提供する国際的なスポーツ組織です。

ユニファイドスポーツ®(Unified Sports®)とは

知的障害のある人(アスリート)と知的障害のない人(パートナー)がチームメイトとなり、一緒にスポーツをする、SO独自の取り組みです。



ユニファイドスクールとは

小学校から大学までの学校と連携し、ユニファイドスポーツ®の機会を学生や学校関係者に提供することで、スポーツを通じて知的障害のある人となない人が、お互いの理解を深めること、またその結果として社会的インクルージョンを促進させることを目的として立ち上げた取り組みです。
本事業もその取り組みの一環として行いました。



本事業について

(1)趣旨

通常学級の体育授業において、障害の有無にかかわらず児童生徒が共に学ぶための指導内容や指導方法等の工夫について、スポーツ庁からの委託を受け実践研究を行いました。

(2)対象

長野県の小学校三校(特別支援学級籍も含む)および特別支援学校分教室の児童、計295名にご協力いただきました。知的障害、自閉スペクトラム症、情緒障害、肢体不自由、視覚障害、聴覚障害のある児童も一緒に活動しました。

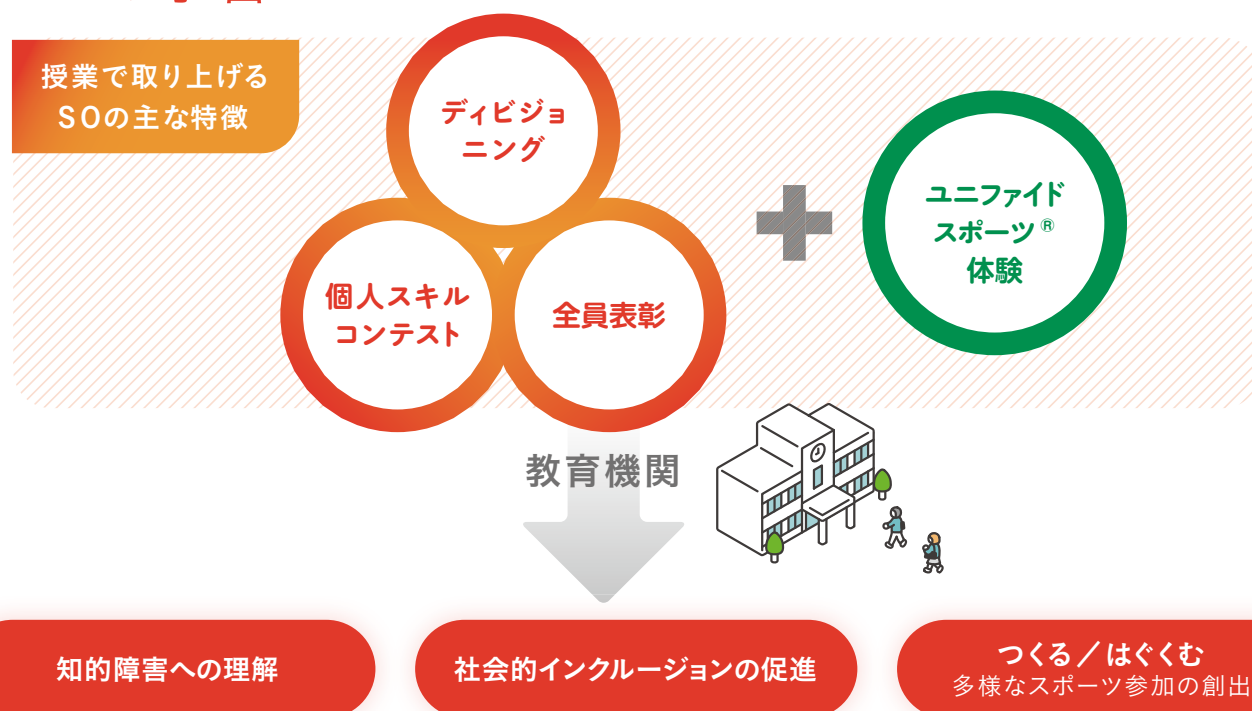
(3)時期

令和5年8月~12月

(4)スペシャルオリンピックス日本が取り組む理由と目的

スペシャルオリンピックスは性別、年齢、競技能力を問わず、共に成長し、共に楽しむ、そしてその経験を分かち合うことが重要と考え活動しています。そのためスペシャルオリンピックスには誰もが参加できるよう、様々な工夫や独自の取り組みがあり、それらの特徴(下図)は、障害の有無に関わらず共に学ぶ体育授業において、大きなヒントとなるはずです。通常学級の児童たちが、ルールや場を工夫することで、障害の有無や運動経験、技能の程度に関わらず、誰もが運動を楽しめるということを知り、その経験から共生社会の実現に向けてより良い社会を作りたいという思いを育んで欲しい。そのような願いから本事業はスタートしました。

SOの学習



フロアボール

室内ホッケーであるフロアボールは、ルールがシンプルなため誰でも手軽に始められ、参加者全員が高い運動量とボールタッチ数を得られるスポーツです。スペシャルオリンピックス日本ではユニファイドフロアボールとして実施されており、知的障害のある人（アスリート）にも、ない人（パートナー）にも楽しまれています。そのため、障害の有無に関わらず共に学ぶ体育授業のあり方を考えていく本事業ではフロアボールを実施しました。



スティック／ボール



ミニゴール

フロアボールを安全に行うための合言葉

ゴルフ

畑

剣道

禁止！



川中島小学校の児童が描いた合言葉のポスター

授業構成モデル

単元の流れ(全10～15時間)

1～3
時間目

フロアボール体験

フロアボール体験とSOの学習はどちらが先でもOK！

4～5
時間目

SOの学習

SOとは？ 個人スキルコンテスト、ディビジョニング、ユニファイドスポーツ®、全員表彰など

- 調べ学習
- SON職員による授業
- SON地区組織で活動するコーチによる講演など、学校やクラスに合う形での学習

6～7
時間目

ルール・場の工夫

SOの取り組みを参考にして、みんなが楽しめるフロアボールの形を考えよう

ルールや場を工夫することで、楽しめる人が増えるということに児童たちが気づく

8～9
時間目

みんなでフロアボール

みんなで考えた形でフロアボールを試してみよう

- ディビジョニングの実施
- オリジナルの個人スキルコンテスト
- 他学年との交流会など、最終授業は学校やクラスにより様々

10
時間目

振り返り

体育・総合的な学習の時間・道徳・国語(話し合い活動)など
色々な教科を組み合わせた合科的な単元

長野市立川中島小学校

》1年生との交流会を企画しよう ～SOのアイデアを生かして～

川中島小学校からは、4年生の3クラスが本単元に取り組んでくれました。「仲間の状況に応じて、ルールや場を工夫する経験をすることで、共生社会について考えるきっかけとなれば」という先生方の願いから、本単元はスタートしました。

実践の テーマ

- 1 ▶ 普段、支援学級で体育を受けている児童も、体育は見学になりがちな児童も、みんなで一緒にフロアボールができればいいな
- 2 ▶ SOの学習で学んだことを生かした交流会を企画し、単元の最後に1年生を招待しよう



SOの学習（総合的な学習の時間）

4年生は事前に、スペシャルオリンピックス日本（SON）の職員とオンラインでつながり、SOやSOの取り組み、知的障害について学びました。また、単元中の参観日には、2023年のSO世界大会に参加された、ユニファイドサッカー日本代表チームのコーチの講演を聴き、保護者の方々と交えてSOや共生社会について考えるきっかけとなりました。



フロアボールの練習（体育）

初回は元フロアボール日本代表であるSON職員の指導の下、スティックの持ち方や基本的なボール操作を学びました。その後は担任の先生方の指導の下、ゲームを多く体験することで、フロアボールを楽しみ、その楽しさを1年生に伝えたいという想いが強くなっていきました。



キーワードは
「少しの工夫！」

交流会準備（国語 話し合い活動）

フロアボールの楽しさを知った4年生は、どのように工夫したら、フロアボールを経験したことのない1年生でも楽しめる交流会になるか、話し合いを重ね、準備にとりかかりました。準備段階では、先生方から次のような声かけがありました。

SOの学習で学んだことをどのように生かせそうかな？

説明は言葉だけでなく、視覚支援も取り入れると1年生には分かりやすいよ

自分が1年生だったら、『わかるかな？できるかな？楽しめるかな？』と考えながら準備をすすめよう

1年生との交流会

SOの取り組みをヒントに、それぞれのクラスがオリジナルの交流会を作りあげました。誰でも参加でき楽しめるようにと、1年生のことを思いやりながら4年生が考えた工夫には、次のようなものがありました。



◀個人スキルコンテスト（ISC）とは
障害の程度や競技能力にかかわらず、より多くの人々がトレーニングや競技に参加できるように、SOでは個人技能競技等の種目が設けられています。ISCでは、シュートの正確性やドリブルのスピード等を競います。



交流会の様子
いろいろな工夫が！



▶待つ場所が分かりやすいようにとマークを置きました。



◀ミニゲームでは、どっちのゴールに得点するかわかりづらいかもしれないという意見から、ゼッケンと同じ色のマークをゴールにつけました。

1年生全員を表彰！

4年生が1年生全員分の手作りメダルを用意して、交流会の最後に1年生の首にかけてあげました。あるクラスは、粘土で本格的なメダルを作りました。



全員表彰とは？

SOでは、頑張った全てのアスリートを称え全員を表彰します。順位だけでなく、競技場に立ち最後まで競技をやり終えた事に対して、一人一人にかわらぬ拍手が贈られます。

実践の 成果

- 1 ▶ 通常学級の体育への参加が難しかった児童も、一緒にフロアボールを楽しむことができた
フロアボールの面白さに加え、短いゲーム中心の授業構成や児童同士の誘いの声かけがありました。
- 2 ▶ 交流会は大成功！4年生が考えた様々な工夫で、1年生みんなに楽しんでもらえた交流会になった

普段は、最後まで一緒に授業を受けるのが難しい1年生の児童も、複数の種目があったことや、短い時間で種目間をローテーションしたことで、最後まで一緒に楽しむことができました。



みんなが楽しめるフロアボールの形

緑ヶ丘小学校からは、前年にパラリンピックの学習をした5年生の3クラスが、SOの学習を通して「クラスにいるみんなが楽しめる形」をテーマに本単元に取り組みました。

実践の
テーマ

1

運動に積極的な児童とそうでない児童の二極化が見られる学級で、ディビジョニングを実施してみよう

2

SOの学習を通して、お互いを受け入れて思いやる気持ちを育てよう

SOについての調べ学習からスタート！(総合的な学習の時間)

SOの学習は、自分たちでテーマを決め、調べたことをスライドにまとめるところからスタートしました。



講演会

ユニファイドサッカー日本代表チームのコーチによる講演会では、2023年にベルリンで行われたSO世界大会のお話をいただきました。質問コーナーでは、児童が調べ学習の中で感じた疑問をコーチに質問しました。金メダルもを見せていただき児童たちも大喜び！

ディビジョニングをやってみよう(体育)

緑ヶ丘小学校では、クラスにいるみんなが楽しめるフロアボールの形にするため、試合の時間やチーム編成について話し合いを重ねました。その中で、SOの取り組みの一つである「ディビジョニング」をやってみようという意見が挙がり、フロアボールに対する自信があるグループと無いグループでチームを分けて実施してみることにしました。



児童の希望や授業後の振り返りを基に、担任がチームを編成した。

ディビジョニングの方法〔緑ヶ丘小学校オリジナル〕

- フロアボールや運動に自信がある児童

がっつりコース
- フロアボールや運動に自信がない児童

ゆったりコース

ディビジョニングの効果

- 「楽しい」と感じる児童の増加
- ディビジョニング前は守りに徹していた児童の攻撃参加



ゆったりだった児童が「(次は)がっつりコースにしたい」と振り返りに記入

自分に適したレベルで経験を積み、自分のタイミングでコースを変えることができた



ディビジョニングを実施したクラスの児童による回答

みんなでフロアボールを楽しむことができました

「はい」100%

ディビジョニングがあつてよかった

「はい」100%

「ディビジョニングがあつてよかった」答えた児童の理由内訳

20%

48%

32%

- 同じチームのメンバーの実力が同じ方が楽しい
- 自分のチームと相手チームの実力が同じ方がやる気が出る
- 自分より実力が高い人と同じチームだと、迷惑をかけてしまうと思うから

単元前に「運動するのは楽しいです。」という項目に対し、「ふつう」「あまりあてはまらない」と回答した児童 27.6%含む全員がこの二つの質問に「はい」と回答しました。

運動に消極的な児童は、相手陣地にボールがあるときでも自陣のゴールを守っていたが、ディビジョニングを取り入れることで積極的にボールを追いかける姿が見られました。



実践の
成果

- 1

ディビジョニングを取り入れたことで、以前は運動に消極的だった児童が、積極的にゲームに参加するようになった
- 2

人間関係の構築に悩んでいた特別支援学級在籍の児童が、単元後に、通常学級の児童と一緒にサッカーをして遊んでいた

「以前は見られなかった光景です。SOの学習を取り入れたことで、通常学級の児童の、他者を受け入れて思いやる気持ちが高まったのかもしれない。」(担任の先生より)



ディビジョニングとは？
SOの競技会では、可能な限り同程度の競技能力のアスリートが競技できるように、性別、年齢、競技能力などによってクラス分け(ディビジョン)を行います。このディビジョニングによって、自分の現在の能力を十分に発揮し、一番輝く機会を得られると考えています。

駒ヶ根市立中沢小学校

》長野県伊那養護学校小学部との合同授業

中沢小学校の校舎内には、長野県伊那養護学校小学部「はなももの里分教室」があります。同じ校舎内で生活しているため、普段から声を掛け合ったり、登下校を共にしたり、運動会や音楽会といった行事と一緒に取り組んだりしています。今回は中沢小学校の3年生と4年生が、「みんなが楽しめる形」をテーマに、はなももの里分教室の児童たちと一緒にフロアボールに取り組みました。

実践の テーマ

- 1 ▶ 障害の有無や程度、運動の得意不得意にかかわらず、みんなで運動を楽しめるよう、ルールや場を工夫しよう
- 2 ▶ 中・重度の障害のある児童と運動活動を共にし、障害のある児童とのかかわり方を学ぼう



SOの学習（総合的な学習の時間）



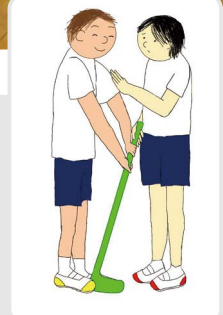
3、4年生はまず、SOやユニファイドスポーツ®、知的障害について学びました。SOをより深く理解する授業には、SONの理事や職員、またSON・長野で活動しているコーチやファミリーが参加し、児童たちはSOや障害について疑問に思ったことを質問しました。

フロアボールの学習（体育）

フロアボールの学習は、初回からはなももの里分教室と合同で行いました。最初の授業では、安全に行うための合言葉（P4）を覚えてから、ボールの操作やパスの練習をし、最後は学年混合チームでドリブルリレーを行いました。



合同授業では、障害のない児童が障害のある児童を積極的に支援しようとする姿が見られました。初回の授業では、障害のない児童がよかれと思って、障害のある児童のスティックと一緒に握り、手取り足取りの支援となった場面がありました。障害のある児童が障害のない児童を押し返し、「自分でやりたい！」という意思を示していました。



一緒に楽しむための工夫



はなももさん フリーゾーン

はなももの里分教室の児童だけがボールに触れる、はなももさんフリーゾーンを設けて一緒にゲームを楽しみました。

えらべるドリブルコース

ドリブルを練習するコースには、児童たちからの提案でコーンの間隔の広いコースが誕生。自分のやりたいコースを選べるようになりました。



▲「一緒にやろう！」と4年生がはなももの里分教室の児童に声をかけ、一緒にドリブルの練習をする様子。

2024年スペシャルオリンピックス日本冬季ナショナルゲーム

\\ エキシビジョンマッチに参加! //

▶2023年11月に長野市で行われた第8回冬季ナショナルゲームで中沢小学校の児童たちがエキシビジョンマッチを披露してくれました。
▼エキシビジョンマッチ後に、SONの平岡理事長より「ユニファイドスクール修了証」が贈呈されました。



過度な支援から程よい距離感の支援へ

合同授業で一緒に練習を重ねていく中で、障害のない児童が障害のある児童とのかかわり方を身につけていきました。フロアボールの最後の授業では、障害のある児童が打ちやすいようボールを止めたり（写真1）、打つ方向を指し示したりという、程よい距離感の支援が見受けられました。「一緒にやらない？」と、はなももの里分教室の児童を誘いにいく3、4年生の姿も見られました（写真2）。

真2）。支援していた児童を押し返していた障害のある児童も、同じチームの仲間たちと楽しそうに練習をしていました。



実践の 成果

- 1 ▶ ルールや場を工夫することで、障害の有無や程度、運動の得意不得意にかかわらず、一緒に運動を楽しめるということに、児童たちが気づいた
 - 「失敗の多い人はもっと練習すべきだと思います」という質問項目が、単元前に比べ有意に低下
 - 「スポーツがにがてな人でなくふうをすればかんたんにできる」という児童からの感想
- 2 ▶ 障害のない児童が、障害のある児童と活動を共にすることで、過度になりすぎない支援の仕方を身につけた

学校生活や合同体育を通し、継続的に活動を共にすることで、障害のある児童とのかかわり方を学んでいきました。合同体育の終盤では、教師の手助けを必要とせずに、児童たちだけで活動できるチームが増えました。



アンケート 結果

先生方からの声

この単元を体育だけでなく、総合的な学習の時間との合科的な授業として扱ったのがとてもよかった。体育の単元として取り組んでいたら、「勝ち負け」が先行してしまい、楽しめない児童もいたはず。

この単元以降に実施した体育の別の種目では、フロアボールに取り組む前は消極的だった児童たちが積極的にゲームに参加するようになったという変化が見られた。

運動が苦手で、普段は体育の授業に消極的な児童が、フロアボールの時間では積極的にボールを追いかけて走る姿がみられました。

普段はほとんどの授業を特別支援学級で受けている児童も、フロアボールには興味をもって参加することができました。交流学級の時間割にフロアボールがあることを知ると、自分で参加することを決め、交流級のみんなと一緒にフロアボールを楽しみました。

交流会で、「少しの工夫」というキーワードをもとに「どうしたらみんなが楽しめるか」を考えたことを通して、日常生活にもその考え方を生かすことができるという考えに至ったことが一番の成果だと感じます。学校ではSOで学んだことを生かす場がたくさんありそうだという気づきができたことは本当に大きな成果だと思います。

導入部分さえ専門の方にご協力いただければ、担当教員にフロアボールの経験や知識が無くても十分体育で扱えると感じました。

SOの学習を経て、児童たちの中で「自分だけの楽しい」から「みんなの楽しい」に考えが変容していった。以前はグループが固定化されがちだったが、SOの学習後には誰とでも遊ぶ姿や、仲のいい友達と違うグループになっても、新しいグループで楽しもうとする様子が見られた。

児童たちからの声

質問1：スペシャルオリンピックスについて学習し、どんなことを考えましたか。

どんなしょうがいがあってもその人たちがスポーツをできるように努力した思いやりでSOはできているんだと思った。

どんなスポーツでもいろいろな工夫をすればみんなが楽しめると思いました。

どんな人でもみんなといっしょにスポーツをすることができるといいことだなあと思いました。みんなにやさしいなと思いました。

スペシャルオリンピックスでは勝ち負けが全てではなくがいてはっている人たちはみんなすごいと考えているのがとてもいいと思いました。スポーツがにがてな私でもフロアボールをやってみようかなとかながってできたのでそこがいいところだと思います。

質問2：今回学習したことを、今後どのように生かせそうですか。

他のスポーツや、スポーツ以外にも勝ち負けにこだわらないで、自分がいしょうけんめいみんなはらていめは、すごいと思て、なぐでもみんなはらていこうと思います。

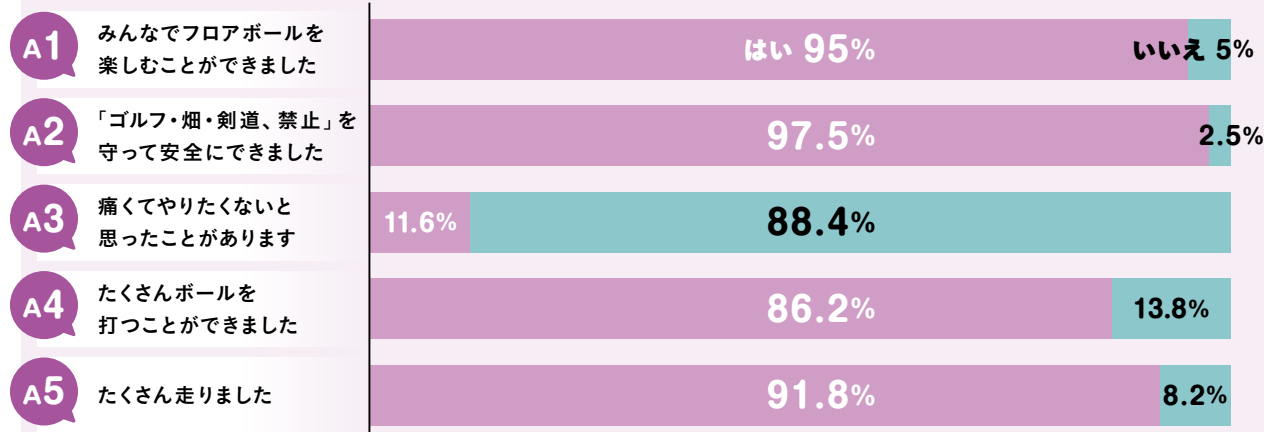
工夫をしたら、スポーツがにがてな人でもたのしめると思うからこれからも、と工夫をすればいいかなと思います。

しょうがいがある人とも、楽しくスポーツをした!!。みんなが楽しめるような工夫をする。

楽しめなかつた人がいればルールを変えて楽しめる

まわりにスポーツのにがてな人がいてもみんながたのしめるように工夫すればいいと思いました。ほかのスポーツもいでもみんなが楽しめるようにすればみんながうれいきもちでいれることができるからです。

単元前と単元後の比較アンケート



川中島小学校で変化があった項目

- チームスポーツは楽しいです
- できなくてもチャレンジするのはおもしろいです
- 自分がんばると、友だちはほめてくれます
- 自分は、運動がうまくいかないとき、友だちに相談しています
- 自分の運動がうまくいったとき、友だちもいっしょに喜んでくれます

- チームのメンバーに腹が立つことがあります
- 運動が苦手な人は、チームにめいわくがかかるので、試合に出ないほうがいいと思います

有意に
向上した
項目

有意に
低下した
項目

本実践の効果 まとめ

障害のない 児童

- ▶ 障害のある児童とのかかわり方を学べた
- ▶ 運動に消極的だった児童が、積極的に運動に参加するようになった
- ▶ 少しの工夫をすることで、障害の有無や程度、運動能力にかかわらず、みんなで楽しめることを知ることができた
- ▶ 本実践での経験が、それ以降の学校生活に生かされている

障害のある 児童

- ▶ 通常学級での体育に参加できなかったり、見学していたりした支援学級の児童も、一緒に運動を楽しめた
- ▶ 障害のない児童をお手本にして、運動に取り組めた
- ▶ 単元前は通常学級の児童と上手く関係を築けていなかった支援学級の児童が、単元後に通常学級の児童と一緒に遊ぶようになった

令和5年度 実践研究委員会委員

滝澤 圭介 長野市教育委員会事務局学校教育課
渡邊 貴裕 順天堂大学スポーツ健康科学部先任准教授
岩沼聡一郎 帝京科学大学教育人間科学部准教授
渡邊 浩美 スペシャルオリンピックス日本 常務理事
和田 武久 スペシャルオリンピックス日本 業務推進部業務推進課長
高橋 由衣 スペシャルオリンピックス日本 ユニファイドスクール担当

協力校

()は特別支援学級在籍

学校名	学年	人数
長野市立川中島小学校	4 学年	86名(7名)
	1 学年	83名(3名)
長野市立緑ヶ丘小学校	5 学年	91名(11名)
駒ヶ根市立中沢小学校	3、4 学年	23名
伊那養護学校 はなももの里分教室	1～6 学年	10名

合計人数：295名 [内、フロアボールのみ参加93名]

協力団体

長野市教育委員会事務局 学校教育課
公益社団法人 スペシャルオリンピックス日本・長野

令和5年度 スポーツ庁委託事業
令和の日本型学校体育構築支援事業

障害の有無にかかわらず共に学ぶ 体育授業の充実 事業報告書

初版発行 2024年3月

編集 スペシャルオリンピックス日本事務局
発行 公益財団法人スペシャルオリンピックス日本
〒105-0003 東京都港区西新橋 2-22-1
西新橋2丁目森ビル7階
[TEL] 03-6809-2034 [FAX] 03-3436-3666

ホームページ [URL] <https://www.son.or.jp>

デザイン 藤本麻衣



本冊子の文章、写真、図版の無断転載、複製、改変等いかなる場合も禁止します。

**Special
Olympics**
Nippon



Special Olympics
Unified Schools